

症例 7： MTA を用いて、歯の神経を保存するケース

ポイント

見た目なんともなくとも虫歯は進行していることがあります。

ある日ポロっと歯が欠けて気づいた時には、既に虫歯が神経まで到達し、痛みを伴ったり、歯の神経を取らなければならないことがあります。

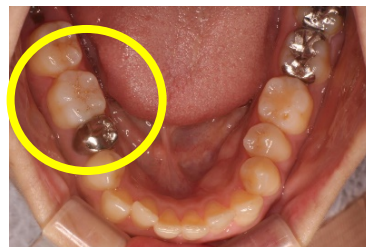
歯の神経を残すことは歯の寿命を長くするためにとても大切です。

MTA というお薬を使うと、通常神経を取らなければならないケースも、神経を残せることがあります。

診査

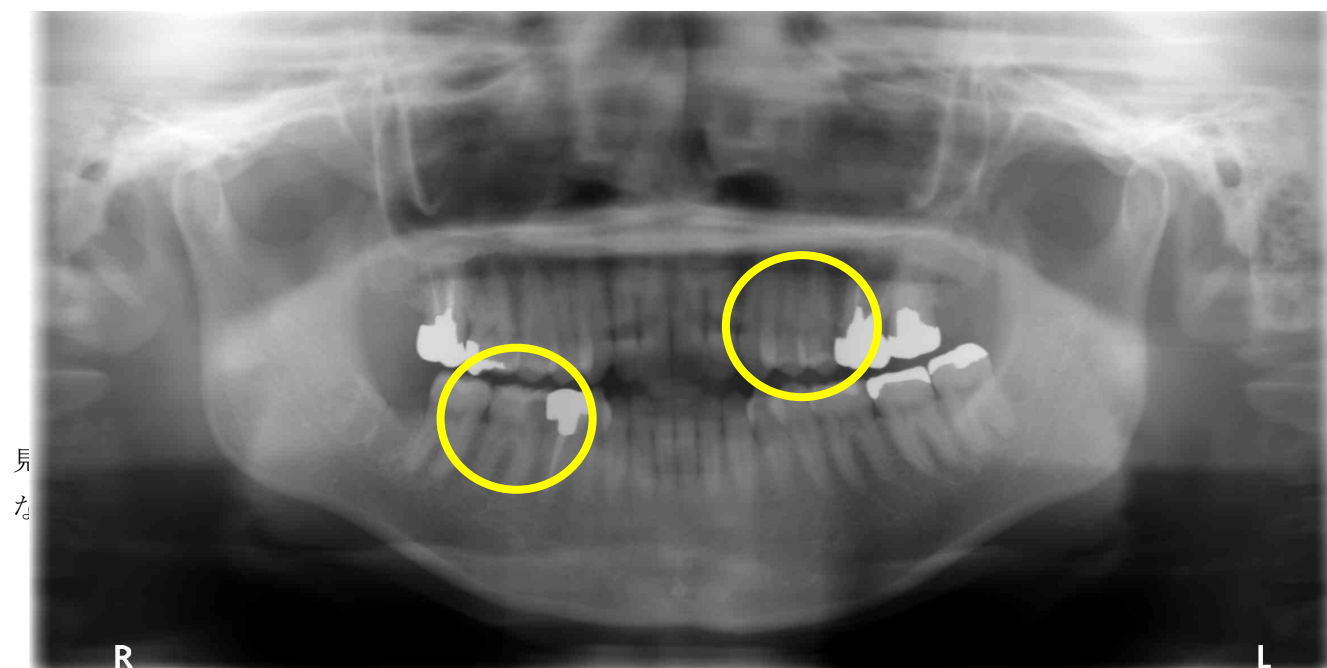
初診時口腔内写真

一見なんともなさそうですが、レントゲンを撮影すると、、、なんとびっくり。

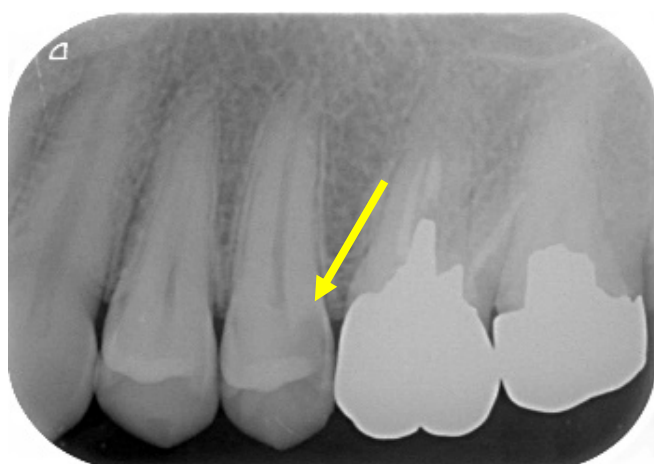


初診時パノラマエックス線

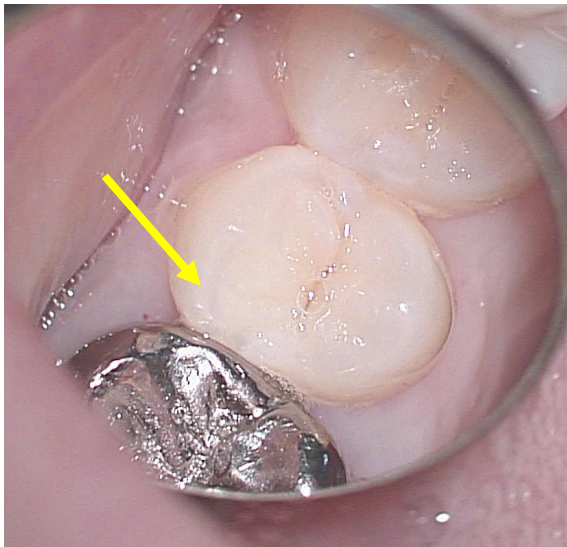
左上 5 番目の小臼歯と、右下 6 番目の大臼歯に大きな虫歯が確認できます。



左上 5 番目の小臼歯を、さらにデンタルエックス線で細かく診査すると、明らかに大きな虫歯です。



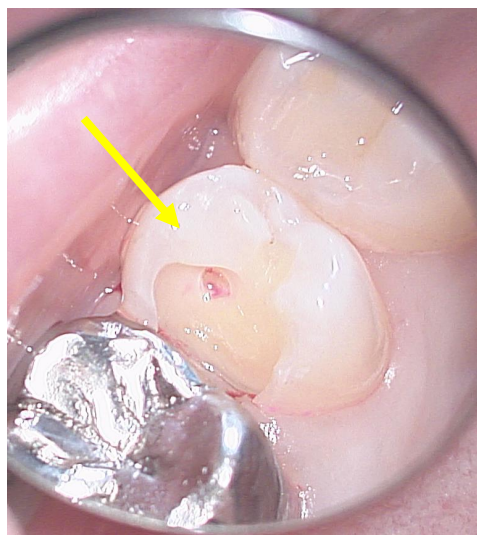
局所麻酔をして表面を削ってみますと、虫歯が見えてきます。



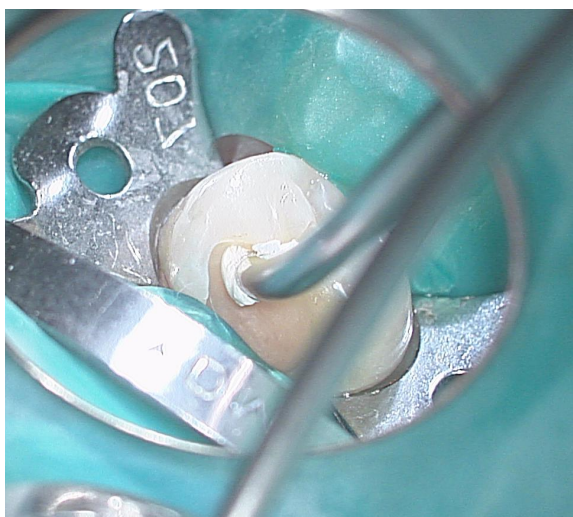
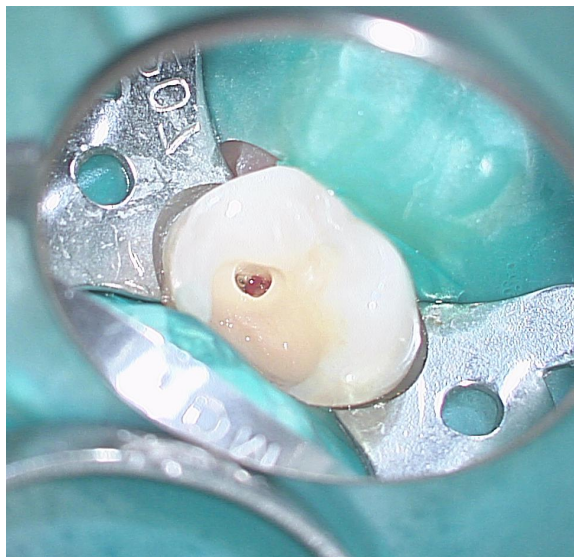
虫歯を検出する特殊な染め出し液を塗布して洗浄すると、赤く染め出されている部分が虫歯で、まだまだたくさんあります。



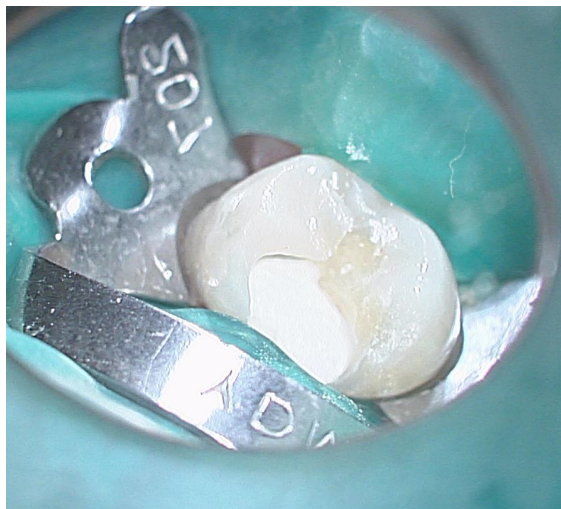
さらに虫歯を除去していくと、神経と血管の入っている部屋（髄室）に貫通し、出血を認め神経まで感染していることがわかります。ここで通常は神経を取る治療になりますが、MTAというお薬を使うことで神経を残すことができます。



再感染しないように、歯の周りにラバーをかけて洗浄消毒をし、MT Aにて封鎖します。

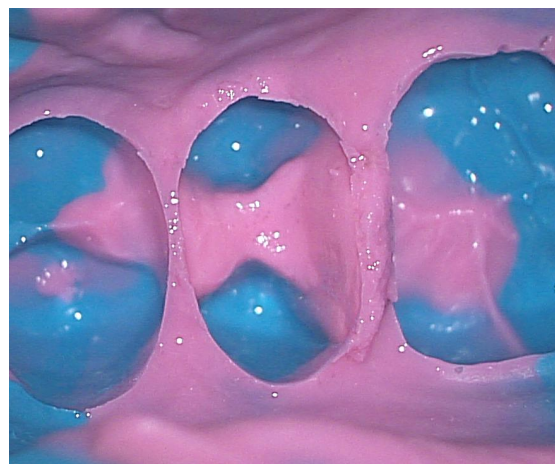


MTAにて封鎖をした後、グラスアイオノマー材にて神経を保護します。



歯にセラミックインレーを詰めるため歯の形を整えると、反対側にもエックス線でも写らない虫歯が見つかります。

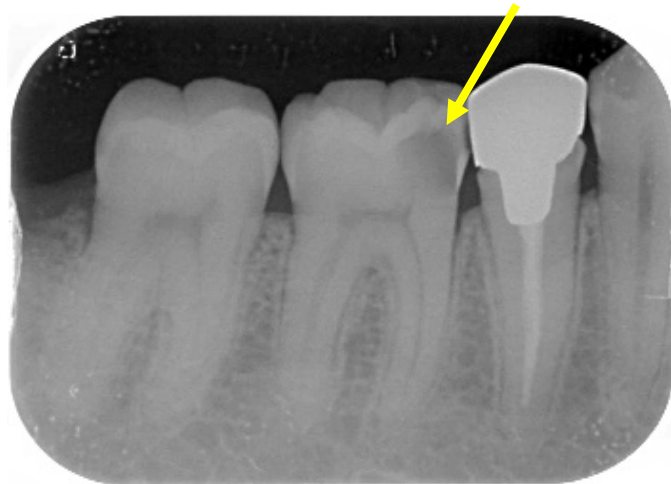
そこもきれいに整え、シリコン材で型を取ります。



セラミックの詰め物が入りました。



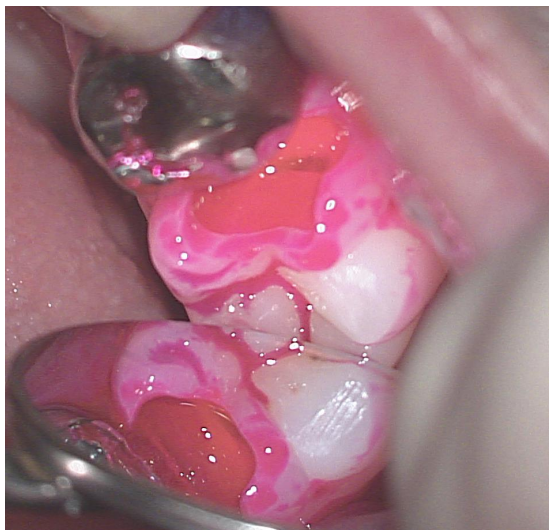
同様に、右下 6 番目の大臼歯をデンタルエックス線で細かく診査すると、やはり明らかに大きな虫歯です。



局所麻酔をして、表面を削ると虫歯が見えてきます。



虫歯を削り染色液で虫歯を検出しますが、まだまだ赤く染まりたくさん虫歯があります。



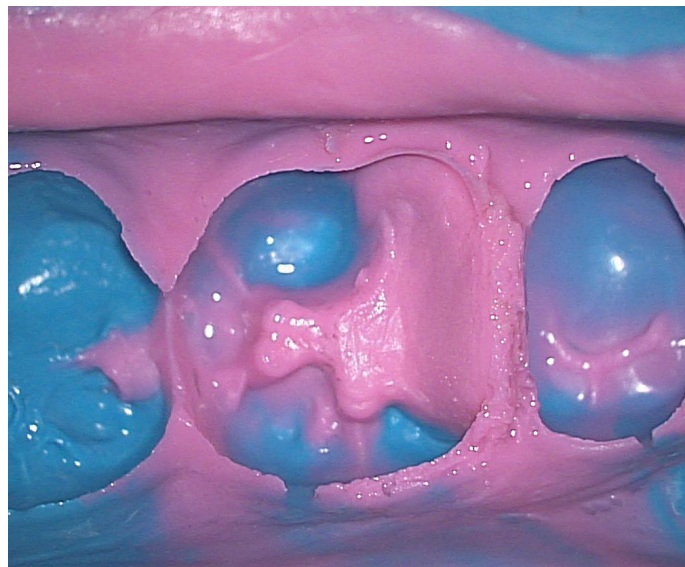
再感染しないように、歯の周りにラバーをかけて洗浄消毒をし、MTAにて封鎖します。



MTAにて封鎖をした後、グラスアイオノマー材にて神経を保護します。



歯にセラミックアンレーを詰めるため歯の形を整え、シリコン材で型を取ります。



セラミックの詰め物が入りました。



術後

